

新刊

Wilson in Tokyo 1914

100年前の東京と自然

—プラントハンター ウィルソンの写真

古居智子（著） B5横・並製・128頁 本体 2,000円

今、記録しなければ、100年後には消えてしまうだろう（1920年 E・H・ウィルソン）

屋久島のウィルソン株に名を残した英国人アーネスト・ヘンリー・ウィルソン（1876-1930）。アジアを中心に世界を旅し、日本の植物学の発展に大きく貢献したプラント・ハンターである。彼は今から100年前の大正3（1914）年に日本を訪れ、その際撮影した写真がアメリカ・ハーバード大学に残されていた。100年前の風景や植物写真から、劇的に変わった景色や暮らし、今なお変わらぬ木々の姿が浮かぶ。

古居 智子（ふるい・ともこ）

大阪生まれ。北海道大学卒。1988年から米国ボストンを拠点にジャーナリストとして活躍。1994年屋久島恋泊に移住。日本と欧米の交流史や屋久島の歴史、文化、自然などをテーマに執筆活動を続けている。2011年からウィルソンの調査を開始。史料の発掘と取材執筆に情熱を注ぐ。
<http://www.t-furui.jp/>



主な著書 『屋久島 恋泊日記』（南日本新聞社）、『増補版 密行 最後の伴天連シドゥティ』（敬文舎）、『ウィルソンの屋久島—100年の記憶の旅路』（KTC中央出版）、『ウィルソンが見た鹿児島—プラント・ハンターの足跡を追って』（南方新社）、『ウィルソン 沖縄の旅 1917』（琉球新報社）、“L'ultimo missionario” (Terra Santa, Milano, Italy)、 “Le dernier missionnaire” (salvator, Paris, France) など多数。



Prunus subhirtella var. *pendula* Tanaka. Kogetsu Temple, Ongata village. 1914-04-01

© President and Fellows of Harvard College. Arnold Arboretum Archives.

今年4月、国立科学博物館で関連の企画展開催。

八坂書房

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町1-4-11 TEL 03-3293-7975 FAX 03-3293-7977